

編集後記

10月～12月にかけて、竜王戦7番勝負が行われている。渡辺竜王に羽生名人が挑戦している将棋ファン注目の対局である。今月号が届くころには、多分、結果が出ていると思われる。私自身は、将棋はほとんど指さず、知識はあまりないが、テレビ中継を見るのが好きである。解説者が次の一手を予測する。中盤の難解の局面だと、次の一手に数十分、時には一時間以上を要する。その間に、様々な手順をシミュレーションし、最適解を見出そうとする。

プロ棋士は、対局がない時は、プロ棋士同士で研究会を盛んに行うとのことである。対戦しながら、一手一手シミュレーションし、考察を繰り返し、局面ごとの最適手順を確立するとのことである。その結果、新たな手法を確立する。最近の有名な手法としては(多少古いが)、中座飛車や藤井システム等、手法を最初に生み出したプロ棋士の名前が付けられる。将棋の手順の研究も、プラズマ・核融合研究と同様に、実験、理論、シミュレーションの3通りの分類に、無理矢理当てはめることができそうである。実際の対局が実験に相当し、研究会で検討した手法(理論)を実証する場であろう。

将棋は、大きく、序盤、中盤、終盤の3段階に分けられる。序盤は、指す手順の自由度が無限にあり、膨大な手法

が研究されている。当然この段階では最適解はわからないものの、大局観を利かして、より最適解の可能性が高いある手順を選択し、指し進める。さしづめ、モンテカルロ法のごとくである。序盤を経て、中盤にさしかかると、徐々に手順の自由度は少なくなる。決定論的手法に移行して行くような感覚である。将棋は終盤になると、詰め路を探索しながら、最終的な詰む手順を確立していく。どんなに莫大な研究を行っていても、対局においては、前例がない新たな局面が現れる。ここからが、対局者同士による究極の実験、理論の実現の場である。解説者の次の一手の予測は外れることが多々見られる。やはり実際の対局者同士でないと、最適解は見出せないのである。最終局面では、詰め路逃れの詰め路の手順が見出されて、局面が逆転することもある。最高に面白い瞬間である。極稀に千日手がある。同じ局面が3度繰り返されると、初手からの指し直しである。持ち時間は、その分減らされる。見ている側からすると、あまり面白くない。プロ棋士も、余程酷い局面でない限り、千日手を避けようとする。

ところで、核融合炉エネルギー実現に向けた研究は、現在どの段階であろうか?多数の手順を要するかもしれないが、詰め路に入っているに違いない。

(佐藤 聡)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	三間 圀興	本島 修	常務理事	中村 幸男(総務委員長)
理 事	秋山 秀典(企画委員長)		板垣 正文		伊藤 早苗	
	今井 剛(広告委員長)		奥野 健二		加藤 敬(財務委員長)	
	近藤 光昇		笹尾真実子		佐野 史道(出版委員長)	
	寺井 隆幸(編集委員長)		畑山 明聖(広報委員長)		浜口 智志(プログラム委員長)	
	林 康明		森 雅博			
監 事	飯尾 俊二		松尾 慶一			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 寺井隆幸(東大)

エディター 関子秀樹(九大)、田中雅慶(九大)、福山 淳(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)、行村 建(同志社大)

編集委員 石島達夫(名大プラズマナノ)、伊藤清一(広島大)、打田正樹(京大エネ科)、江原真司(九大総合理工)、大谷寛明(核融合研)、大矢恭久(静大理)、菊池祐介(兵庫県立大)、栗本祐司(シャープ)、後藤基志(核融合研)、齋藤和史(宇都宮大)、酒井 道(京大院工)、榎原 悟(核融合研)、坂本隆一(核融合研)、佐藤 聡(原子力機構)、佐藤杉弥(日本工業大工)、田中照也(核融合研)、田中康規(金沢大)、長友英夫(阪大レーザー研)、浪平隆男(熊大院自然)、畠山賢彦(東北大金研)、花田和明(九大応力研)、濱口真司(核融合研)、林 伸彦(原子力機構)、平田孝道(武蔵工大工)、森 道昭(原子力機構関西)、吉川正志(筑波大院数理)、吉田弘樹(岐阜大工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第84巻第12号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2008年(平成20年)12月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。